

令和 6 年 6 月 6 日現在

機関番号：32702

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2021～2023

課題番号：21H00468

研究課題名(和文) 欧米諸国の生命倫理に関する基本理念及び運用・制度の法学的、哲学・倫理的比較研究

研究課題名(英文) Juristic, philosophical and ethical comparative study of fundamental principles, applications and institutions in the Western bioethics

研究代表者

小出 泰士 (Koide, Yasushi)

神奈川大学・国際日本学部・講師

研究者番号：30407225

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 14,120,000円

研究成果の概要(和文)：ヨーロッパ諸国における生命倫理政策の根底にある基本理念や価値観の比較研究の結果、近年の動向として、自律尊重と社会的連帯性が重視されていることが明らかとなった。

終末期医療(介助自殺、安楽死)では、病態の程度、苦痛の種類、死期の切迫度による対応の違いはあるものの、死に方の決定においては、十分な情報と熟慮による本人の意思の尊重のほか、社会的連帯性(思いやり)の原則に基づき、社会(医療)による苦痛からの開放や、傷つきやすい人々の尊厳の保護も重視される。生殖補助医療でも同様に、自律尊重や平等や連帯性の原則に基づき、異性カップルだけでなく独身女性や同性カップルにも生殖技術の利用を認める傾向にある。

研究成果の学術的意義や社会的意義

生命倫理の分野においては、制度面でも思想面でも、わが国はヨーロッパ諸国から遅れている。ヨーロッパでは、国民的議論と国会での議論を経た上で、終末期医療についても生殖補助医療についても法律を制定し、その中で介助自殺や安楽死(の一部)、独身女性や同性カップルの生殖補助技術の利用を認めてきている。ヨーロッパの生命倫理政策の根底には、自律尊重だけでなく、人間の尊厳、統合性、傷つきやすさ、連帯性といった、アメリカとは若干重心の異なる特有の価値観があることが明らかとなった。わが国が欧米と必ずしも同じになる必要はないとしても、今後のわが国の生命倫理政策を考える上で、ヨーロッパの価値観は参考になるだろう。

研究成果の概要(英文)：Our comparative study of the fundamental ideas and the values on which the bioethical policies are based in European countries, has showed that, in recent years, the principle of respect for autonomy and that of solidarity are attached great importance to.

In the field of terminal care(including physician assisted suicide and euthanasia), in order to decide his own way of dying, to say nothing of the respect for the person's will based on sufficient information and reflection, relieving the pain and protecting human dignity of the vulnerable are also attached great importance to according to the principle of social solidarity (consideration), with a difference in the state of disease, the kind of pains or the imminence of the time of death. Also in the field of assisted reproduction, European societies have a tendency to admit also same-sex couples or unmarried women to use the assisted reproductive technology according to the principle of respect for autonomy, equality or solidarity.

研究分野：生命倫理学

キーワード：生命倫理 医療倫理 終末期医療 ヒト多能性幹細胞 ゲノム編集技術 人間の尊厳 傷つきやすさ 社会的連帯性

1. 研究開始当初の背景

今日、情報通信技術の発達に伴うグローバル化の進展により、生物医学分野における情報や技術は瞬く間に世界に普及する。しかも、科学・技術は世界共通であることから、先端技術研究は、諸外国同様わが国でも進められ、世界中で熾烈な開発競争が繰り広げられている。だが、優れた最新技術は、解決のつかない倫理的問題を、必ずと言っていいほどもたらす。現代の優れた技術は、諸刃の剣として、人類に利益と同時に災厄をもたらす可能性を秘めている。一方の利益となる技術が、同時に他方で危害や人間の尊厳の侵害をもたらすかもしれない。そのため、常に何らかの規制が必要なのだが、現在のグローバル化した世界においては、そうした技術の使用を一部の国々で規制しても、他の国々で規制がなければ、現実には規制は無きに等しいものになってしまう。そこで、1つの方向性としては、技術使用に対する国際的な共通の規制が必要となる。だが、もう1つの方向性として、いかなる生命倫理政策も各国・各文化に固有の文化的・宗教的価値観に依拠している以上、多様性の尊重も必要である。いかに魅力的に映る考え方や技術に対する規制の仕方であっても、他の国の考え方や規制をそのまま真似て自国に移植すればよいというわけにはいかない。こうして、生物医学倫理は、一方で世界に共通する普遍的な考え方や規制の追求と、他方で各国・各文化の価値観の多様性の尊重という、一見相反する方向性を同時に追求しなければならないという立場に置かれているわけである。

2. 研究の目的

以上のような状況を背景として、わが国としてはいかなる生命倫理政策を策定すればよいか課題である。わが国にはわが国固有の習慣、文化、風土、価値観がある以上、アメリカやヨーロッパの国々における考え方や規制と同じことをすればよいというわけにはいかない。実際、欧米でも、国によって、文化によって、考え方は少しずつ異なっている。そこで、わが国における生命倫理政策を考える上で、欧米の生命倫理政策に現れている考え方や価値観にただ追従するのではなく、それらを他山の石として参考にして、わが国独自の対策を考えていかなければならない。ただし、ただ多様性に流されるのではなく、あくまで人類に共通する普遍的価値を見据えつつ、多様性を尊重するものでなければならない。

そのために、欧米諸国を中心に、生命倫理の基本原則から、その具体的な法的運用や制度、体制、さらには、国の審議会ないし検討会、倫理審査体制等も射程に入れて相互に比較し、哲学的に掘り下げ、かつ、法学的に検討する。いわば、欧米諸国を中心にした比較生命法、比較生命倫理思想に取り組む。そのことにより、今後のわが国における実践的課題解決に向けての展望が見えてくるのではないかと考えた。

本研究における目的を以下に4つ挙げる。

私たちの研究は、欧米諸国の生命倫理に関する基本理念および法的規制について、概念・原理に基づく理論的研究と、法・ガイドラインなどの実践的資料研究との両面から究明し、各国の多様な倫理的許容性を総合的に探ることにある。

単なる理論的研究に終わるのではなく、その成果を人間の尊厳の保護へつなげる。すなわち、わが国の生物医学の倫理的拠り所として役立つ生命倫理政策提言として結実させようとするものであり、研究成果を社会に還元するという生産的な意義も併せ持つ。

より高い見地から見れば、本研究は、欧米諸国の主要な生命観の動向とその思想的背景を理解した上で、生物医学分野における生命操作技術の行き過ぎに歯止めをかける倫理基準を確立するために、欧米諸国の生命倫理政策を批判的に検討し、わが国独自の見解を世界に発信する素地を具体的に整えるというものである。

私たちのメンバーは、哲学研究者、法学研究者から構成されている。日本の他の研究組織や学会等との共同研究会、海外研究とのシンポジウム、講演会などを積極的に企画し、幅広いアプローチを通して生命倫理の諸問題をグローバルな視点から考察する。組織がこのように学際的に構成されていることは、人文系(倫理学)の研究としては異例かもしれないが、そのことがこの研究の独創性を形作るものである。

3. 研究の方法

欧米各国の生命倫理に関する多様な基本理念と法的規制について、二方向からアプローチをする。1つは、生命倫理思想に関する哲学的・倫理的な比較思想研究である。もう一つは、法的規制や法的制度に関する比較法学的研究である。

生命倫理思想に関する哲学的・倫理的な比較思想研究では、現在の基本理念の根底にある思想を、その起源にまで遡り、哲学史的にその出自を明らかにする。そうした伝統の上に現在の基本理念があることを解明する。したがって、基本理念だけを他の国がただ真似をして移植してみても機能しないだろう。そこで、どのようにそれを換骨奪胎して、わが国の生命倫理政策に生かせるかを考察しなければならない。こうした手続きは、やはりそれぞれの国の基本理念の出自を明らかにしてからでなければ、不可能であると思われる。

法的規制や法的制度に関する比較法学的研究では、生命倫理思想に関する哲学的・倫理的な比較思想研究における解明に依拠して、今度はそれが実際に法的規制や制度としてどのように運用されているかについて法学的に解明する。それは、単に法的規制自体にとどまらず、国

の審議会ないし検討会、倫理審査体制等も射程に入れて、研究する。そうすれば、今後の日本の実践的課題解決に向けても、大いに参考になると思われる。

したがって、この共同研究は、各国の基本理念の研究とそれに依拠した法的規制・体制の研究という縦糸と、そうして明らかにされた欧米各国の基本理念と法的規制・体制を、今度は異なる国々の間で相互に比較研究するという横糸を含んでいる。その縦糸と横糸との交差したところに、立体的な研究が生み出されるものと確信している。

さらに、ヨーロッパ各国の検討にとどまらず、研究が向かうもう一方のベクトルである国際的対応に関する研究にも視野を広げる。世界人権宣言のほかに、ヨーロッパはすでに、「人権と基本的自由の保護のための条約」(欧州人権条約)や「人権と生物医学に関する欧州条約」を有している。すでに触れたように、今日のグローバル化する世界においては、例えば、バイオテクノロジー、ゲノム編集技術、再生医療技術、脳神経技術など、生命操作技術は容易に国境を超えるので、それに対する国際社会による一致した共同的対策が必要である。EUにおいて、欧州各国の文化、価値観の多様性を生かしつつ、いかにして合意できる規則を作り上げているのか、そして、人間の尊厳の不可侵性やそれに基づく人権の擁護という原則にしたがって、どのように欧州人権裁判所が欧州諸国に対して機能しているかについても明らかにする。

研究代表者・研究分担者・研究協力者総勢 14 名は、欧米の様々な国の哲学や法学を専門とする研究者であるので、その知見、教養、人脈、語学力を生かして、それぞれが専門としている国を担当し、それぞれの担当国における法的規制の現状およびその原理的根拠について、関係論文、関連図書、法令、判例、行政指針、諮問委員会の答申、各種機関による勧告・提言・助言などの資料の分析、および各国の医療関係者や生命倫理研究者への聴き取り調査などを通じて、各国の生命倫理政策の特質とその根底にある生命倫理思想の特質、および他国のそれらとの相違点などを、根底から明らかにする。年 1 回、研究者 2 名を担当国に派遣し、関係者と直接対話し、資料収集のために関連機関を訪れ、その国の生命倫理政策の現状について実地調査する。現地で得た知見を持ち帰り、毎年 7 月と 12 月に 2 回研究会を開催し、それぞれの研究成果について共有し、討議する。さらにその成果を、生命倫理や医療倫理に関する学会におけるシンポジウムや研究発表において、国内の研究者に向けて発信する。

毎年欧米諸国から、倫理諮問委員会のメンバーや生命倫理に関する哲学・法学分野の研究者や医療関係者を招聘し、その国の生命倫理政策の基本理念および実際の法的規制について直接情報を得るために、公開の講演会やシンポジウムを東京や京都で開催し、各国の多様な文化、宗教、価値観を背景とした生命倫理政策の現状と課題と今後の動向について報告してもらい、直接かれらと議論し、欧米の生命倫理思想の解明に努める。

各年度末には、わが国の斯学の発展に寄与するために、その年度の研究成果を集大成した資料集『生命倫理・生命法研究資料集』を刊行し、わが国の今後の生命倫理研究や生命倫理政策のために、参考資料として役立ててもらおうべく、国内の研究者や関係者に配布する。

4. 研究成果

近年の生物医学分野における生命操作技術の進歩には目を見張るものがあり、それらの技術の推進と規制については各国で幾分違いはあるものの、しかし世界全体がそれら先端技術の大きな進歩のうねりの中に呑み込まれ、受入れるにせよ拒絶するにせよ、その対応を否応なく迫られていると言ってよい。それは日本ととても例外ではない。

研究対象とした分野は、終末期医療(介助自殺、安楽死を含む)、遺伝子に関連した問題(出生前診断、着床前診断、ゲノム編集技術を含む)、生殖補助医療、多能性幹細胞と再生医療、ヒト胚研究、臓器移植、患者の権利、インフォームド・コンセントなど多岐にわたるが、その中で特に、終末期医療と生殖補助医療に関して得られた知見を、以下に概観する。欧米の生命倫理政策を根底で支える原則や価値観の変遷を、具体的なテーマにおいて確認することで、欧米の生物医学倫理全体の傾向性もまた理解できるだろう。

近年欧米では、終末期医療に対する国の対応が喫緊の課題として求められ、終末期医療、緩和ケア、介助自殺、安楽死などについて、次々と法制化されてきている。欧米の多くの国々では、かなり以前から、無益な延命治療の差し控えや中止などいわゆる消極的安楽死については、容認されている。それについては、患者の自律の尊重から、たとえ患者の生命に関わるとしても、治療を拒否する患者の権利が認められている。

近年特に問題となっているのは、介助自殺や、医師が直接関与するいわゆる積極的安楽死の問題である。それらについても、現在多くの国々で、法制化あるいは法制化のための検討がなされている。ドイツでは、2015 年以來刑法 217 条によって、非営利組織団体が他人の自殺を促進するために業務によってその機会を提供することを禁止してきたが、2020 年に連邦憲法裁判所は、その刑法 217 条を違憲と判断した。そもそもドイツでは、自殺は犯罪ではないため、自殺支援自体は罰せられない。自殺介助を望む重い病気の人々、自殺介助を業務とする組織の代表者たち、職業の自由が侵害されているとする医師や弁護士等が、刑法 217 条はドイツ基本法によって保証されている基本権を侵害しているとして、連邦憲法裁判所に基本権侵害の審査を申し立てた。裁判所は、自己決定により死ぬ権利は人格権に属するとして、患者が死を選ぶ権利を認めた。国家には、国民の生命を保護する義務もあるのだが、ここでは自律尊重の原則を優先させた。

オランダでは、患者の要請が自発的で熟慮されたものであることや、患者の苦痛が耐えがたく改善の見込みのないことなど 6 項目の「注意深さの要件」を満たしている場合に、介助自殺あるいは積極的安楽死の対象となる。国にはやはり国民の生命を保護する義務はあるのだが、同時に、

患者の自律を尊重し、患者を苦痛から解放することによって人間の尊厳を尊重する義務もある。「注意深さの要件」を満たしていると認められる場合には、緊急避難として、自殺補助や囑託殺人の違法性は阻却される。さらに、そこには、医療者が善行の義務に基づき、思いやりにより患者を苦痛から解放すべきであるという考えもある。介助自殺あるいは積極的安楽死を認めなかった場合、自殺を図ることによって、悲惨な最期を遂げる懸念もあるからである。また、死期が迫っていることを介助自殺あるいは積極的安楽死の条件としていない国々もあり、その場合には、身体的苦痛だけでなく、神経難病、認知症、精神疾患、複合老人性疾患などによりやがて人間としての尊厳を失うことに対する耐え難い精神的苦痛から死を選ぶことも認められている。その背景には、身体的かつ精神的統合性という、人間を全体として尊重すべきという原則がある。

フランスでは、消極的安楽死については、1999年以來治療を拒否する権利として、法律で規定してきたが、一方、介助自殺あるいは積極的安楽死に関しては、人間社会の基本的禁止規範に対する違反として容認してこなかった。とはいえ、近隣諸国において相継いで介助自殺が容認されていく中で、フランスとしても対応しないわけにはいなくなった。生命倫理には国境はないからである。そのため、現在、議会において審議が進められている。その際に柱となる原則が、最も脆弱な人々に対する連帯性の原則と、人間の自律尊重の原則である。緩和ケア分野における公衆衛生上の措置の強化の必要性は言うまでもないが、緩和ケアをどんなに尽くしてもそれでもカバーしきれない救いを必要とする患者がいることも事実である。

こうして、欧米社会では、人生の終わりの場面で、生命技術の進歩によって長引かされる耐えがたい苦痛から逃れるために、介助自殺や積極的安楽死といった死に方を選ぶ方策を、自律尊重、人間の尊厳、統合性、脆弱性、善行、連帯性と言った原則に依拠して、模索している。

近年、LGBTQの運動などに見られるように、世界は多様性を尊重する傾向にある。個人主義的・自由主義的傾向の強いアメリカ社会においては、以前から、単身女性や女性カップルが生殖補助技術を用いて子どもをもうけることや、自分の子どもを他人の女性に生んでもらう代理出産が一部で行われてきたが、ヨーロッパでは、そうしたことは否定的だった。特に、フランスでは、単身女性や女性カップルが生殖補助技術を利用することを、自律尊重の行き過ぎとして、また、代理出産を人間の尊厳の侵害として非難してきた。実際、医師が単身女性や女性カップルに対して生殖補助技術を実施したり、代理出産を斡旋したりすることを、法律で禁止してきた。

ところが近年、ヨーロッパ諸国では、次々と単身女性や女性カップルによる生殖補助技術の利用が容認されてきた。フランス国内で禁止しても、単身女性や女性カップルは、容認されている外国に行き、人工授精や代理出産によってもうけた子どもを国内に連れ帰って育てるという状況では、規制は無きに等しいものだった。実際、フランス国内では、異性の両親が揃った家庭は全体の5割以下にすぎず、残りは同性の両親や片親の家庭であるという。

平等の原則に依拠すれば、異性の法律婚カップルに生殖補助技術の利用が認められているのであれば、異性の事実婚のカップルにも、女性カップルにも、単身女性にも認めるべきではないかということで、2021年の生命倫理法改正で、すべての女性に生殖補助技術を利用して子どもをもうけることが容認された。しかし、平等の原則に依拠するのであれば、男性カップルにも生殖補助技術の利用を認めるべきであろうが、男性カップルに対しては、代理出産の絶対的禁止を理由に、現在はまだ容認されていない。

こうしてフランス社会が、以前は嫌悪すらしていた「自律尊重の行き過ぎ」に関して、法律で容認した背景には、保健医療民主主義という近年EU諸国で推進されている保健政策があるかもしれない。フランスでは、生命倫理法のように国民に大きな影響を及ぼす法律を改正する際には、数年にわたる入念な国民的議論を必要とするということが、2011年の生命倫理法改正の際に規定された。そうした民意を反映した結果、かえって、これまでフランス社会が死守してきた、自然には起こりえないことを技術の力で実現することへの歯止めが外れることになった可能性がある。ここでは、民主主義という価値観に依拠して民意を反映することと、不自然なことへの技術使用の禁止という従来の保守的な価値観とがせめぎ合っている。

以上、終末期医療と生殖補助医療に関する欧米の生命倫理政策について概観してきたが、わが国の生命倫理政策と比べると、その隔たりの大きさを再確認させられる。いずれの分野においても、わが国でも法律の必要性が叫ばれて久しいが、依然として法律はなく、議論も進んでいない。どちらの分野も国民の生活と密接に関係するにもかかわらず、ほとんど規制も罰則もないままに、技術だけが進んでいる。時々ニュースにはなるものの、倫理的に問題だと指摘されるだけで過ぎてしまう。

わが国においても、各分野の専門家や国民から選ばれた人々によって構成される、倫理的問題を中立の立場で専門に議論する場が必要ではないか。その際、単にそれぞれの意見を戦わせるのではなく、欧米に見られるように、人間社会や日本社会の普遍的な基本的倫理原則や価値観を明らかにし、それに依拠して議論することが重要であると思われる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計60件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 8件）

1. 著者名 秋葉悦子	4. 巻
2. 論文標題 教皇庁生命アカデミーの近況：人格主義生命倫理学のグローバル化の取り組み	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 生命倫理・生命法研究資料集	6. 最初と最後の頁 54-129
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 浅見昇吾	4. 巻 15
2. 論文標題 ドイツにおける「生命の促進」の変化	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 上智ヨーロッパ研究	6. 最初と最後の頁 5-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 香川知晶	4. 巻 1
2. 論文標題 倫理問題から考えるゲノム編集の課題	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 ゲノム編集の最新技術と医薬品・遺伝子治療・農業・水畜産物・有用物質生産への活用	6. 最初と最後の頁 530-557
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小出泰士	4. 巻 78-2
2. 論文標題 新しい時代の倫理学から見た着床前診断	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 臨床婦人科産科	6. 最初と最後の頁 236-240
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 児玉聡	4. 巻 573
2. 論文標題 私的空間で喫煙する自由について	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 TASC Monthly	6. 最初と最後の頁 6-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Maki Kobayashi	4. 巻 235
2. 論文標題 La situation juridique au Japon concernant la fin de vie	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 愛知大学法学部法経論集	6. 最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小林真紀	4. 巻 38
2. 論文標題 生殖ツーリズムと法的親子関係 ヨーロッパ人権裁判所およびEU裁判所の判例に基づく考察	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 年報医事法学	6. 最初と最後の頁 118-130
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林真紀	4. 巻 11
2. 論文標題 保健医療民主主義の観点からみたフランス生命倫理法制の新たな機能	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 生命と倫理	6. 最初と最後の頁 9-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Maki Kobayashi	4. 巻 1
2. 論文標題 La fin de vie en droit japonais : la predominance du droit souple	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Revue de droit sanitaire et social	6. 最初と最後の頁 5-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 品川哲彦	4. 巻 73-1,2
2. 論文標題 環境正義と倫理的考察	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 文学論集	6. 最初と最後の頁 77-111
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 品川哲彦	4. 巻 73-4
2. 論文標題 共感理論とケアの倫理	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 文学論集	6. 最初と最後の頁 1-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 品川哲彦	4. 巻 1
2. 論文標題 人間の尊厳はくるむようにして守られる	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 問いとしての尊厳概念	6. 最初と最後の頁 111-133
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 品川哲彦	4. 巻 57-9
2. 論文標題 ケアの倫理とは、どういう思想か	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 作業療法ジャーナル	6. 最初と最後の頁 1063-1067
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 品川哲彦	4. 巻 57-10
2. 論文標題 医療・看護・介護とケアの倫理	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 作業療法ジャーナル	6. 最初と最後の頁 1162-1165
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本田まり	4. 巻 11
2. 論文標題 HLA適合性のための着床前検査 (診断) に関する法的状況: フランスおよびベルギーを中心として	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 生命と倫理	6. 最初と最後の頁 19-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松田純	4. 巻 13
2. 論文標題 人間の尊厳とは何か	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 医療と倫理	6. 最初と最後の頁 11-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 横野恵	4. 巻 58-4
2. 論文標題 小児医療における意思決定と親の裁量範囲	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本周産期・新生児医学会雑誌	6. 最初と最後の頁 676-679
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 秋葉悦子	4. 巻 33巻6号
2. 論文標題 人格主義生命倫理学と患者の自己決定権	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 老年精神医学雑誌	6. 最初と最後の頁 545-554
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 香川知晶	4. 巻 36巻3号
2. 論文標題 パンデミック、バーンアウト、クリニカル・エンパシー	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ストレス科学	6. 最初と最後の頁 139-149
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Satishi Kodama	4. 巻 48
2. 論文標題 Understanding Japan's response to the COVID-19 pandemic	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Medical Ethics	6. 最初と最後の頁 173-173
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1136/medethics-2022-108189	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 小林真紀	4. 巻 258
2. 論文標題 家族間における延命措置の葛藤	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 別冊ジュリスト	6. 最初と最後の頁 200-201
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 品川哲彦	4. 巻 50巻
2. 論文標題 ハンス・ヨナスのスピノザ論	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 哲学論叢	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Toshinari Mizuno	4. 巻 16
2. 論文標題 Brain Death as the Criterion of Legal Death	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Philosophy and Ethics in Health Care and Medicine	6. 最初と最後の頁 26-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 水野俊誠	4. 巻 15
2. 論文標題 グリーン『倫理学序説』における共通善	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 エティカ	6. 最初と最後の頁 41-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 盛永審一郎	4. 巻 8
2. 論文標題 安楽死アトラス	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 生命倫理・生命法研究資料集	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 横野恵	4. 巻 53巻5号
2. 論文標題 がん領域における全ゲノム解析研究とオンラインによる患者・市民参画の実践	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 臨床薬理	6. 最初と最後の頁 169-175
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 横野恵	4. 巻 40巻9号
2. 論文標題 医科学研究者が知っておきたい個人情報保護法改正のポイント	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 実験医学	6. 最初と最後の頁 1422-1425
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 横野恵	4. 巻 258
2. 論文標題 親権者の同意と医療ネグレクト	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 別冊ジュリスト	6. 最初と最後の頁 72-73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 秋葉悦子	4. 巻
2. 論文標題 イタリア国家生命倫理委員会「Covid-19：資源不足の状況における臨床上の決定と『パンデミックの緊急事態におけるトリアージ』の基準」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 生命倫理・生命法研究資料集	6. 最初と最後の頁 126-138
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 浅見昇吾	4. 巻
2. 論文標題 ドイツにおける自殺幫助問題の再吟味	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 生命倫理・生命法研究資料集	6. 最初と最後の頁 219-233
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 浅見昇吾	4. 巻 第9号
2. 論文標題 ゲノム編集をめぐる倫理的諸問題	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 生命と倫理	6. 最初と最後の頁 125-128
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 浅見昇吾	4. 巻 1
2. 論文標題 ドイツにおける自殺幫助問題の新しい動向	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 生命倫理・生命法研究論文集	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奥田純一郎	4. 巻 27巻7号
2. 論文標題 法学から見た安楽死	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 難病と在宅ケア	6. 最初と最後の頁 9-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奥田純一郎	4. 巻 第9号
2. 論文標題 人文社会科学研究と公共性	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 生命と倫理	6. 最初と最後の頁 45-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 香川知晶	4. 巻 2022
2. 論文標題 人体資源化の時代	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 死生学年報	6. 最初と最後の頁 47-64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 香川知晶	4. 巻
2. 論文標題 フランス生命倫理法改正と生命倫理三部会の試み	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 生命倫理・生命法研究資料集	6. 最初と最後の頁 175-179
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久保田顕二	4. 巻
2. 論文標題 「生まれない」ことの良さと「死ぬ」ことの悪さをめぐって	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 生命倫理・生命法研究資料集	6. 最初と最後の頁 193-217
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小出泰士	4. 巻
2. 論文標題 フランス生命倫理の基本理念について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 生命倫理・生命法研究資料集	6. 最初と最後の頁 168-174
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小出泰士	4. 巻
2. 論文標題 フランス生命倫理法改正における生殖補助医療の適用拡大をめぐる考察	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 生命倫理・生命法研究資料集	6. 最初と最後の頁 234-259
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小出泰士	4. 巻 1
2. 論文標題 フランス生命倫理における「生殖への医学的補助」の哲学の変遷について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 生命倫理・生命法研究論文集	6. 最初と最後の頁 15-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 児玉聡	4. 巻
2. 論文標題 生命倫理と同調圧力	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 生命倫理・生命法研究資料集	6. 最初と最後の頁 91-125
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 児玉聡	4. 巻
2. 論文標題 緊急事態の倫理	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 生命倫理・生命法研究資料集	6. 最初と最後の頁 218-251
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 児玉聡	4. 巻 31巻1号
2. 論文標題 COVID-19パンデミックと公衆衛生倫理の三つの課題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 生命倫理	6. 最初と最後の頁 4-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林真紀	4. 巻 2
2. 論文標題 治療の中止と生命に対する権利	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 人権判例報	6. 最初と最後の頁 25-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林真紀	4. 巻 227
2. 論文標題 終末期における意思決定	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 愛知大学法学部法経論集	6. 最初と最後の頁 1-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林真紀	4. 巻 4
2. 論文標題 フランスにおける終末期医療関係法が抱える課題	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 医事法研究	6. 最初と最後の頁 31-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林真紀	4. 巻
2. 論文標題 フランス生命倫理法改正にみる保健医療民主主義	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 生命倫理・生命法研究資料集	6. 最初と最後の頁 180-185
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林真紀	4. 巻
2. 論文標題 ヨーロッパ人権条約8条の射程	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 生命倫理・生命法研究資料集	6. 最初と最後の頁 107-111
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林真紀	4. 巻 1
2. 論文標題 延命治療の中止・差し控えにおける家族らの役割	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 生命倫理・生命法研究論文集	6. 最初と最後の頁 51-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 品川哲彦	4. 巻
2. 論文標題 『認知症患者安楽死事件』の投げかける問い	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 生命倫理・生命法研究資料集	6. 最初と最後の頁 291-314
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 品川哲彦	4. 巻
2. 論文標題 ドイツ連邦憲法裁判所判決の投げかけるもの	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 生命倫理・生命法研究資料集	6. 最初と最後の頁 120-124
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 品川哲彦	4. 巻 1
2. 論文標題 自殺することは人格の権利か	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 生命倫理・生命法研究論文集	6. 最初と最後の頁 69-84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本田まり	4. 巻 第8号
2. 論文標題 出生前の生命をめぐる法と倫理	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 生命と倫理	6. 最初と最後の頁 65-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松田純	4. 巻 1
2. 論文標題 なぜいま地域包括ケアか	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 生命倫理・生命法研究論文集	6. 最初と最後の頁 85-102
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 水野俊誠	4. 巻 14
2. 論文標題 グリーンの理想主義の可能性	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 エティカ	6. 最初と最後の頁 29-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 水野俊誠	4. 巻 1
2. 論文標題 快樂主義に対するグリーンによる批判の評価	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 生命倫理・生命法研究論文集	6. 最初と最後の頁 103-133
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 盛永審一郎	4. 巻 第8号
2. 論文標題 オランダ安楽死法と欧州人権条約	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 生命と倫理	6. 最初と最後の頁 5-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 盛永審一郎	4. 巻
2. 論文標題 オランダにおける「明示的かつ真摯な要請」と「自発的で十分に考慮された願い」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 生命倫理・生命法研究資料集	6. 最初と最後の頁 260-290
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 盛永審一郎	4. 巻
2. 論文標題 オランダ安楽死の法と倫理	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 生命倫理・生命法研究資料集	6. 最初と最後の頁 32-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 盛永審一郎	4. 巻 1
2. 論文標題 オランダ安楽死の法と倫理	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 生命倫理・生命法研究論文集	6. 最初と最後の頁 135-158
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計58件（うち招待講演 34件 / うち国際学会 12件）

1. 発表者名 秋葉悦子
2. 発表標題 二つの生命倫理学
3. 学会等名 生命倫理と睡眠を考える会 in 福井（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 秋葉悦子
2. 発表標題 教皇庁生命アカデミーの新たな方向性
3. 学会等名 自然法研究会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 秋葉悦子
2. 発表標題 倫理コンサルテーションの在り方
3. 学会等名 滋賀県立総合病院臨床倫理研修会（招待講演）
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 浅見昇吾
2. 発表標題 Natural Disasters and Religion
3. 学会等名 上智大学グリーンケア研究所（国際学会）
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 香川知晶
2. 発表標題 アメリカにおけるMAIDの歴史と現状
3. 学会等名 日仏国際シンポジウム「終末期医療における法と原理」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小出泰士
2. 発表標題 科学的な医療と傷つきやすい人間
3. 学会等名 シンポジウム「日本の生命倫理学の現状と課題」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小出泰士
2. 発表標題 生命倫理はなぜ必要か
3. 学会等名 大塚製薬工場(招待講演)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Satoshi Kodama
2. 発表標題 Review of public policies and incidents of end-of-life care in Japan over the past decade
3. 学会等名 Yonsei-Kyoto Workshop(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Satoshi Kodama
2. 発表標題 Conceptual and ethical issues in pandemic response
3. 学会等名 The Uehiro-Oxford-Melbourne-Japan Conference (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小林真紀
2. 発表標題 保健医療民主主義の観点からみる生命倫理法制の機能
3. 学会等名 日本生命倫理学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Maki Kobayashi
2. 発表標題 La fin de vie en droit compare : le cas du Japon
3. 学会等名 Webinaire La fin de vie en droit compare - conference de droit compare de la sante (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Maki Kobayashi
2. 発表標題 Mariage homosexuel et (tourisme de) la procreation
3. 学会等名 franco-japonais de droit public(Universite du Luxembourg) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Maki Kobayashi
2. 発表標題 La bioethique et le modele japonais
3. 学会等名 La Chaire Jean Monnet EU Bioethics (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 品川哲彦
2. 発表標題 「結婚」と「反転図形」
3. 学会等名 臨床哲学フォーラム (招待講演)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 本田まり
2. 発表標題 着床前検査 (診断) に関する諸外国の法的状況
3. 学会等名 日本生命倫理学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 松田純
2. 発表標題 レジリエンスとしての健康
3. 学会等名 日仏国際シンポジウム「終末期医療における法と原理」 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 松田純
2. 発表標題 臨床研究における倫理審査委員会の役割
3. 学会等名 静岡県立がんセンター（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 松田純
2. 発表標題 生きがいを支える在宅ケア
3. 学会等名 静岡市社会福祉協議会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 松田純
2. 発表標題 地域包括ケアとアドバンス・ケア・プランニング
3. 学会等名 静岡市社会福祉協議会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 横野恵
2. 発表標題 医療者・家族の間で意向が一致しないとき
3. 学会等名 小児神経の倫理を語らう会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 横野恵
2. 発表標題 NIPTと倫理的・法的・社会的課題
3. 学会等名 日本周産期・新生児学会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Megumu Yokono
2. 発表標題 Personal data in medical research
3. 学会等名 BRIDGES：BKY国際臨床倫理ワークショップ（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 横野恵
2. 発表標題 胎児心臓診断と倫理的課題
3. 学会等名 日本胎児心臓病学会（招待講演）
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 横野恵
2. 発表標題 治療中止の法的側面
3. 学会等名 新生児生命倫理研究会（招待講演）
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 横野 恵
2. 発表標題 法と倫理
3. 学会等名 CRePネットワークシンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 香川 知晶
2. 発表標題 「治療であるという誤解」は矯正可能か
3. 学会等名 日本生命倫理学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 香川 知晶
2. 発表標題 哲学・倫理の観点から見たヒトゲノム編集の臨床応用
3. 学会等名 日本学会議
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小出 泰士
2. 発表標題 最先端技術の倫理問題
3. 学会等名 科研費研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小出泰士
2. 発表標題 臓器移植に対するフランスの取組みについて
3. 学会等名 日本医学哲学・倫理学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小出泰士
2. 発表標題 「原則禁止だが例外的に容認」は倫理的に正しいか
3. 学会等名 日本生命倫理学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 児玉聡
2. 発表標題 コロナ禍と死生
3. 学会等名 日本臨床死生学会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 児玉聡
2. 発表標題 Covid-19のパンデミックと二つの倫理
3. 学会等名 日本生命倫理学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 児玉聡
2. 発表標題 近年の医療倫理
3. 学会等名 日本集中治療学会 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Satoshi Kodama
2. 発表標題 Ethical, legal, and social aspects of end-of-life care in Japan
3. 学会等名 Ethical of End-of-life care (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Maki Kobayashi
2. 発表標題 L'Etat de droit dans le domaine de la fin de vie au Japon
3. 学会等名 Seminaire Franco-Japonais de Droit Public (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小林真紀
2. 発表標題 ヒト胚研究規制と『人間の尊厳』の原理
3. 学会等名 日本生命倫理学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小林真紀
2. 発表標題 『生殖ツーリズム』と法的親子関係
3. 学会等名 日本医事法学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 松田純
2. 発表標題 安楽死と自殺幫助
3. 学会等名 日本学術会議（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 松田純
2. 発表標題 人性の最終段階をどう支えるのか
3. 学会等名 日本尊厳死協会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 盛永審一郎
2. 発表標題 ヨナスにおけるIntegritatの概念
3. 学会等名 日本医学哲学・倫理学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 盛永審一郎
2. 発表標題 再考「着床前遺伝学的検査は人間の尊厳と両立可能か」
3. 学会等名 日本生命倫理学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 横野恵
2. 発表標題 小児のEnd-of-Life-Careにおける意思決定と子どもの最善の利益
3. 学会等名 日本集中治療医学会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 横野恵
2. 発表標題 新たな認証制度の下での医療機関認証の概要と実施状況
3. 学会等名 日本医事法学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 横野恵
2. 発表標題 小児医療における意思決定の親の裁量範囲
3. 学会等名 日本周産期・新生児医学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 香川知晶
2. 発表標題 パンデミック、バーンアウト、クリニカル・エンパシー
3. 学会等名 日本ストレス学会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 児玉聡
2. 発表標題 緊急事態の倫理
3. 学会等名 京都生命倫理研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 児玉聡
2. 発表標題 パンデミックと倫理学
3. 学会等名 法政策共同研究センター
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Satoshi Kodama
2. 発表標題 Ethical Quarantine in the Globalized Age
3. 学会等名 The 2021 EACME Conference (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 児玉聡
2. 発表標題 COVID-19と生命倫理
3. 学会等名 日本集中治療学会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小林真紀
2. 発表標題 死をめぐる決定と私生活を尊重される権利
3. 学会等名 日本生命倫理学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 品川哲彦
2. 発表標題 ドイツ連邦憲法裁判所判決の投げかけるもの
3. 学会等名 日本生命倫理学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 本田まり
2. 発表標題 人工妊娠中絶および出生前診断に関する法と倫理
3. 学会等名 生命に関する法律・制度を考える勉強会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 本田まり
2. 発表標題 安楽死と「私生活を尊重される権利」
3. 学会等名 日本生命倫理学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 本田まり
2. 発表標題 出生前診断の法的課題
3. 学会等名 大東文化大学法学研究所（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松田純
2. 発表標題 被験者保護のための規制の正当性の歴史
3. 学会等名 静岡県立静岡がんセンター（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松田純
2. 発表標題 人間の尊厳とはなにか
3. 学会等名 関東医学哲学・倫理学会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松田純
2. 発表標題 価値観の多様性とむきあう臨床
3. 学会等名 日本リビング・ウィル研究会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 盛永審一郎
2. 発表標題 オランダ安楽死の法と倫理
3. 学会等名 日本生命倫理学会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計12件

1. 著者名 香川知晶	4. 発行年 2023年
2. 出版社 きょう西人民出版社	5. 総ページ数 288
3. 書名 没人能是 旁視者	

1. 著者名 児玉聡	4. 発行年 2023年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 340
3. 書名 予防の倫理学	

1. 著者名 児玉聡	4. 発行年 2023年
2. 出版社 金芳堂	5. 総ページ数 198
3. 書名 京大式 臨床倫理のトリセツ	

1. 著者名 盛永審一郎	4. 発行年 2023年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 129
3. 書名 安楽死を考えるために	

1. 著者名 香川知晶	4. 発行年 2022年
2. 出版社 法政大学出版局	5. 総ページ数 492
3. 書名 尊厳と生存	

1. 著者名 香川知晶	4. 発行年 2023年
2. 出版社 日本学術協力財団	5. 総ページ数 236
3. 書名 「人間の尊厳」とは	

1. 著者名 香川知晶	4. 発行年 2023年
2. 出版社 知泉書館	5. 総ページ数 271
3. 書名 コロナ・トリアージ 資料と解説	

1. 著者名 児玉聡	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 243
3. 書名 Covid-19の倫理学：パンデミック以後の公衆衛生	

1. 著者名 松田純	4. 発行年 2022年
2. 出版社 南山堂	5. 総ページ数 273
3. 書名 薬学と倫理	

1. 著者名 香川知晶	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ディスカヴァー・トゥエンティワン	5. 総ページ数 407
3. 書名 命は誰のものか 増補改訂版	

1. 著者名 田坂さつき、香川知晶	4. 発行年 2022年
2. 出版社 知泉書館	5. 総ページ数 290
3. 書名 人のゲノム編集をめぐる倫理規範の構築を目指して	

1. 著者名 松田純	4. 発行年 2021年
2. 出版社 中央大学出版部	5. 総ページ数 528
3. 書名 終末期医療、安楽死・尊厳死に関する総合的研究	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	浅見 昇吾 (Asami Syogo) (10384158)	上智大学・外国語学部・教授 (32621)	
研究分担者	秋葉 悦子 (Akiba Etsuko) (20262488)	富山大学・学術研究部社会科学系・教授 (13201)	
研究分担者	盛永 審一郎 (Morinaga Shin'itiro) (30099767)	公立小松大学・サステイナブルシステム科学研究科・特任教授 (23304)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	松田 純 (Matsuda Jun) (30125679)	静岡大学・人文社会科学部・名誉教授 (13801)	
研究分担者	小林 真紀 (Kobayashi Maki) (60350930)	愛知大学・法学部・教授 (33901)	
研究分担者	本田 まり (真鍋まり) (Honda Mari) (60384161)	芝浦工業大学・工学部・教授 (32619)	
研究分担者	香川 知晶 (Kagawa Chiaki) (70224342)	山梨大学・大学院総合研究部・医学研究員 (13501)	
研究分担者	横野 恵 (Yokono Megumu) (80339663)	早稲田大学・社会科学総合学術院・准教授 (32689)	
研究分担者	児玉 聡 (Kodama Satoshi) (80372366)	京都大学・文学研究科・教授 (14301)	
研究分担者	品川 哲彦 (Shinagawa Tetsuhiko) (90226134)	関西大学・文学部・教授 (34416)	
研究分担者	奥田 純一郎 (Okuda Jun'ichiro) (90349019)	上智大学・法学部・教授 (32621)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 日仏国際シンポジウム「終末期医療における法と原理」	開催年 2023年～2023年
-------------------------------------	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------